

多くの人々、農作物を運搬した
 沖縄県軽便鉄道の跡地

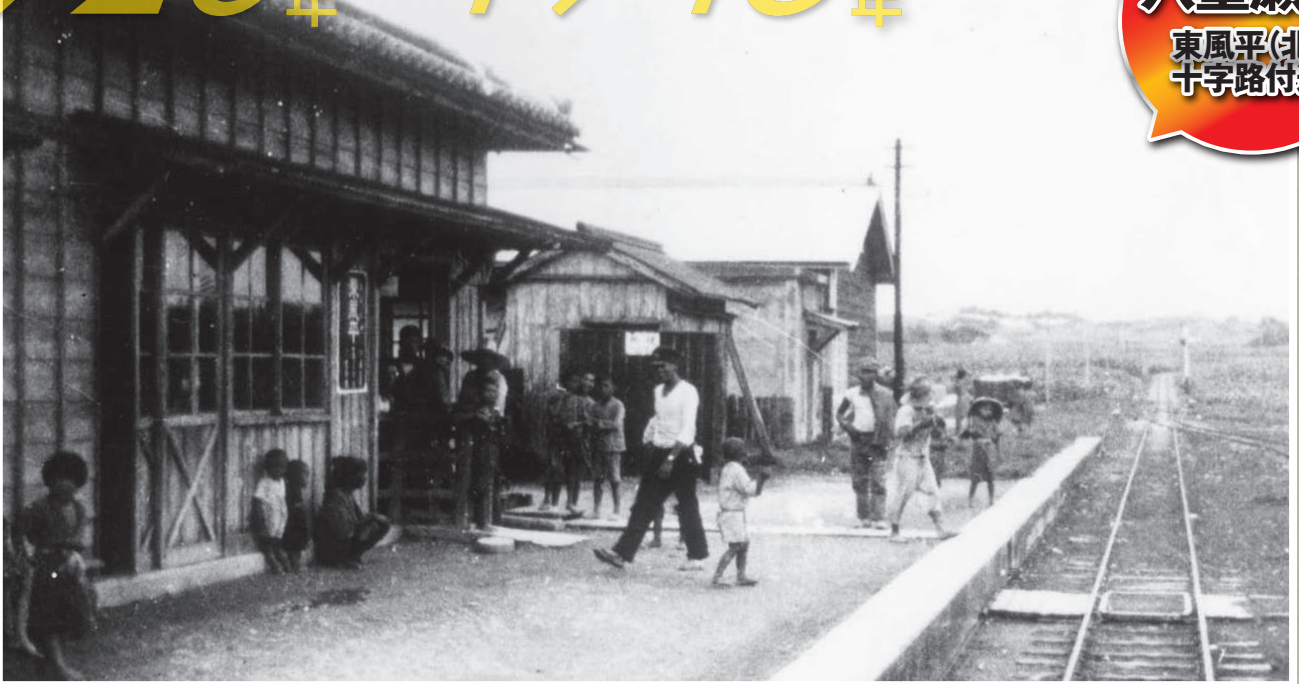
2006年1月に東風平町と具志頭村の二町村が合併して誕生した八重瀬町は沖縄本島南部に位置する肥沃な大地で、昔から農業が盛んな地域です。また、国道の拡張や土地区画整理などにより、都市開発も進められています。

そんな八重瀬町には、「ケイビン」(「ケイビン」の愛称で親しまれた沖縄県軽便鉄道の糸満線(那覇駅-糸満駅)が、1923~1945年まで運行していました。現在の東風平(北)十字路付近にあった東風平駅は、糸満線では乗降客数が最も多く、上り下りの列車の複線線路が設けられ、駅前からは八重瀬町港川方面へバスが発車していたようです。現在その跡地周辺に、在りし日の東風平駅の風景を伝えるパネルと、歩道には線路のイメージが表示されています。



記憶に残るシーンや印象的な出来事などを古い写真とともに振り返ります。

1923年~1945年



屋宜原駅(無人駅)と世名城駅(停留所)の間にあった東風平駅(有人駅)(写真提供:那覇市歴史博物館)



わが町の魅力を伝える

「八重瀬町観光拠点施設 南の駅やえせ」

八重瀬町の農業や漁業・商工業などの生産分野や地域の歴史、文化、自然を活用した多様な体験・滞在・交流型観光産業の創出を目的として、2017年にオープン。シンボルツリーのV字形のガジュマルは、50年ほど前に当時の具志頭中学校敷地内に卒業記念として植えられたものです。施設内では、農家直送の野菜、農産加工品や工芸品など、町の特産品が豊富に並ぶほか、特産品を使った飲食店も併設しています。また、町内の観光案内所や行政窓口も設けられ、地元住民や観光客の交流・憩いの場になっています。



八重瀬町観光拠点施設 南の駅やえせ <http://yaese-station.jp>



現在の東風平(北)十字路付近(写真提供:八重瀬町役場)